**小学生(低)礼拝11月②**

**イエス様の教え(1) 放蕩息子（イエス様③）**

今日は、イエス様の教え、というお話をしたいと思います。

イエス様は、さまざまなお話しをされました。お話を通して、私たちに神様の心を紹介しようとされたのです。今日は、イエス様のたくさんあるお話の中から、「放蕩息子」と「迷える子羊」についてお話をしたいと思います。

あるところに、二人の息子をもつお父さんがいました。あるとき、弟が、お父さんに「私はおとなになりました。私の分の財産を下さい」と、言いました。お父さんは、弟に財産を分けてあげました。

すると、弟は、もらった財産を全部持って、家を出てしまいました。そして、美味しい食べ物をたくさん食べて、宝石や立派な洋服もたくさん買って、仲のいい友だちといつも遊んでばかりいました。

もちろん、仕事なんかしていません。お父さんからもらった、お金はみるみる減っていき、あっという間に、なくなってしまいました。お金も、食べる物も、着る物もなくなってしまうと、いままで、いっしょに遊んでいた友だちも、弟から離れていってしまいました。

全てを失った弟は、身も心もボロボロになりました。食べるものもありません。空腹で、とても苦しみました。

やっとのことで、ある農家に雇ってもらい、豚を飼う仕事を始めました。それでも、貧しい生活は続きます。空腹はずっと続きました。あまりにもお腹がすいた弟は、豚の世話をしながらも、豚の餌を食べたいとまで思うくらいでした。

全てを失った弟は、心の底から今までの自分のやってきたことを、反省しました。

「自分はなんて愚かなことをしてしまったのか。自分勝手に家を飛び出して、財産をすべてつかいはたし、友達にも見捨てられ、一人でみじめに、飢えて死のうとしている。最後に父のもとに戻ろう。そして、今までのことをすべて謝ろう」

弟は、家に戻ること決心しました。

ところで、お父さんはどうだったのでしょうか？家を飛び出した、弟に対して「なんて親不孝なむすこなんだ」と恨んでいたのでしょうか？

そんなことはありませんでした。ずっと、ずっと、愛する息子が家に帰ってくることを神様に祈って待っていたのです。

そして空腹でぼろぼろになった、弟が家の近くにくるやいなや、お父さんは、その弟を抱きしめたのです。弟はいいました。

「わたしは、神様とお父さんに対して罪を犯しました。もう、息子と呼ばれる資格はありません」

お父さんは、そんな弟に対して、決して怒りませんでした。ただただ、優しく抱きしめ続けました。そして、僕たちに命じました。

「一番良い服を持ってきなさい。そして、今夜は宴会をしよう。おいしい食事をたくさん準備しなさい。死んだと思ったわたしの息子が帰ってきたんだ」

さて、宴会がおこなわれている中で、ひとり納得できない人がいました。それは、お兄さんです。お兄さんは、お父さんに言いました。

「私は、お父さんと共に一生懸命働いてきました。弟は、勝手に家を飛び出して、好きなだけ遊んで、自分のせいで、貧しくなったのです。どうして、自分勝手なことばかりしてきた弟に、こんなことをするのですか！」

すると、お父さんはいいました。

「息子よ、おまえはいつもわたしと一緒にいたではないか。あなたもわたしの大切な息子だ。わたしの持っている物はすべてあなたの物だ。しかし、あなたの弟は、いなくなってしまった。親として愛を与えることができなかった。そんな弟が今帰ってきたのだ。親としていままで愛せなかった分、愛してあげたいんだ。」

このお話はこれでおしまいです。このお父さんの心こそが、神様の心です。イエス様は、このたとえ話を通して、私たちに神様の愛を教えて下さったのです。

私たちが、どんなに神様のことを忘れても、神様は決して私たちのことを忘れません。

そして、私たちが、神様の下に帰りたいと願えば、神様はいつでも、心から私たちを迎えてくれるのです。

聖書には、兄が弟を許したのか、は書いてありません。でもきっと、兄は、お父さんの心を理解して、弟を許し、弟と仲良くなったことでしょう。